令和 8 年（2026 年）3 月

令和 6 年度 学生生活調査結果

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

まえがき

日本学生支援機構（JASSO）では、全国の学生を対象として学生生活状況を把握することにより、学生生活支援事業を充実するための基礎資料を得ることを目的として、平成16年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成14年度までは文部科学省が実施していましたが、平成16年4月にJASSOが設立されたことを機に文部科学省から移管され、現在に至っています。

このたび、令和6年度の調査結果を取りまとめましたので、主に大学学部昼間部、短期大学昼間部を中心に、前回調査（令和4年度）との比較を行いながら、調査結果の概要を紹介します。

令和6年度調査は、前回と同様に、大学学部、短期大学本科を調査対象とし、全国2,716,360人の中から、設置者（国公私）ごとに、大学学部昼間部、同夜間部、短期大学昼間部、同夜間部の別に抽出率を定めてサンプル数を算出し、これを各大学、短期大学に割り当てて調査を依頼しました（一部区分については全数調査）。調査対象となった82,593人のうち、有効回答は12,659人、回収率は15.3%となりました。本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

なお、本調査は、令和4年度からオンラインによる調査に変更しました。調査の実施方法等については、今後も、必要な見直しを行ってまいりますので、引き続き、なお一層のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑で、この調査で取り上げた事に尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の大学及び短期大学の関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

令和8年3月

独立行政法人　日本学生支援機構

Ⅰ．調査実施方法等について

1. 調査の目的　この調査は、全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象　大学学部、短期大学の学生
（社会人学生を含む。通信制課程、休学者及び外国人留学生は除く。）

3. 調査の時期　令和 6 年（2024年） 11 月（隔年調査）

4. 調　査　数　全国の学生2,716,360人（文部科学省の令和5年度「学校基本調査」調査票情報を利用）から、大学、短期大学の昼間部、夜間部別に、下記の抽出率によって算出した、82,593人を対象に調査を実施した。

区分＼設置者別		国　立	公　立	私　立
大学学部	昼間部	３／７６	１／１０	１／６３
	夜間部	２７／３５	（全数調査）	１３／３８
短期大学	昼間部		３３／４０	２／２５
	夜間部		（全数調査）	（全数調査）

※上記の数値は、在籍学生数に対する調査数の割合を示したものである（調査数/在籍学生数）。
※大学学部（昼間部）については、層化多段抽出を行っているため、在籍学生数と調査数が完全には比例しない。また、在籍学生数の少ない一部の大学は、一定の確率で調査対象から外れている。
※公立の大学学部（夜間部）及び短期大学（夜間部）については、母集団である全国の学生数が少数であるため、全数調査とした。

5. 調 査 方 法　日本学生支援機構が、学校別の調査数とともに所定の調査票での調査実施を各学校に依頼し、各学校が、依頼された調査数で無作為抽出した学生（全数調査の区分は全学生）に調査案内を配付。学生が、オンライン調査システムから回答する方法により、調査を行った。

Ⅱ．調査結果の概要

令和６年度学生生活調査結果として、学生生活費、学生の収入状況、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、通学時間、週間平均生活時間、大学の学生支援体制への満足度、学生の不安や悩みの項目について取りまとめた。

＜令和６年度調査回収率＞

回収率　：　15.3％（有効回答数 12,659 人／調査数 82,593 人）

＜令和６年度調査結果の一例(大学学部（昼間部）)＞

- 学生生活費（学費と生活費の合計（支出額））は、令和４年度調査（以下「前回調査」という。）より 10.7％増加している。

	令和４年度		令和６年度
学生生活費	1,824,700 円	→	2,019,100 円（194,400 円増（10.7％増））

- 収入額についても、前回調査より 3.2％増加している。

	令和４年度		令和６年度
収　入　額	1,967,400 円	→	2,030,100 円（62,700 円増（3.2％増））

- 収入額に占める内訳の割合では、前回調査より家庭からの支援が 5.1 ポイントの減、奨学金が 0.9 ポイント増加、アルバイト収入が 5.9 ポイント増加している。

	令和４年度		令和６年度
家庭からの支援	55.8％	→	50.7％（5.1 ポイント減）
奨　　学　　金	20.7％	→	21.6％（0.9 ポイント増）
アルバイト収入	19.1％	→	25.0％（5.9 ポイント増）

〔調査結果における留意事項〕

1．本調査における学生生活費は、学費と生活費を合わせた支出額である。

学　費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計

生 活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・し好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計

2．「家庭の年間平均収入額」については、令和 6 年度調査から回答方法の変更により算出は困難となったため、本調査結果から表示しないこととした。

3．本調査結果の集計表６－１表と６－２表で示す奨学金受給者の割合には、日本学生支援機構の奨学金（給付・貸与）とそれ以外の奨学金（給付・貸与）の両方を含む。

4．本調査結果の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。

5．質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計表では集計対象としていない。

6．各集計表の脚注に、有効回答数（n）を参考値として表示している。なお、設問によって有効回答数が異なることから、各集計表における n は必ずしも一致しない。

7．集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として、調査対象学生総数についての推計値を算出した結果である。

8．表中の記号は次のように使う。

「 － 」 ： 計数が無い場合

「0.0」 ： 計数が単位未満の場合

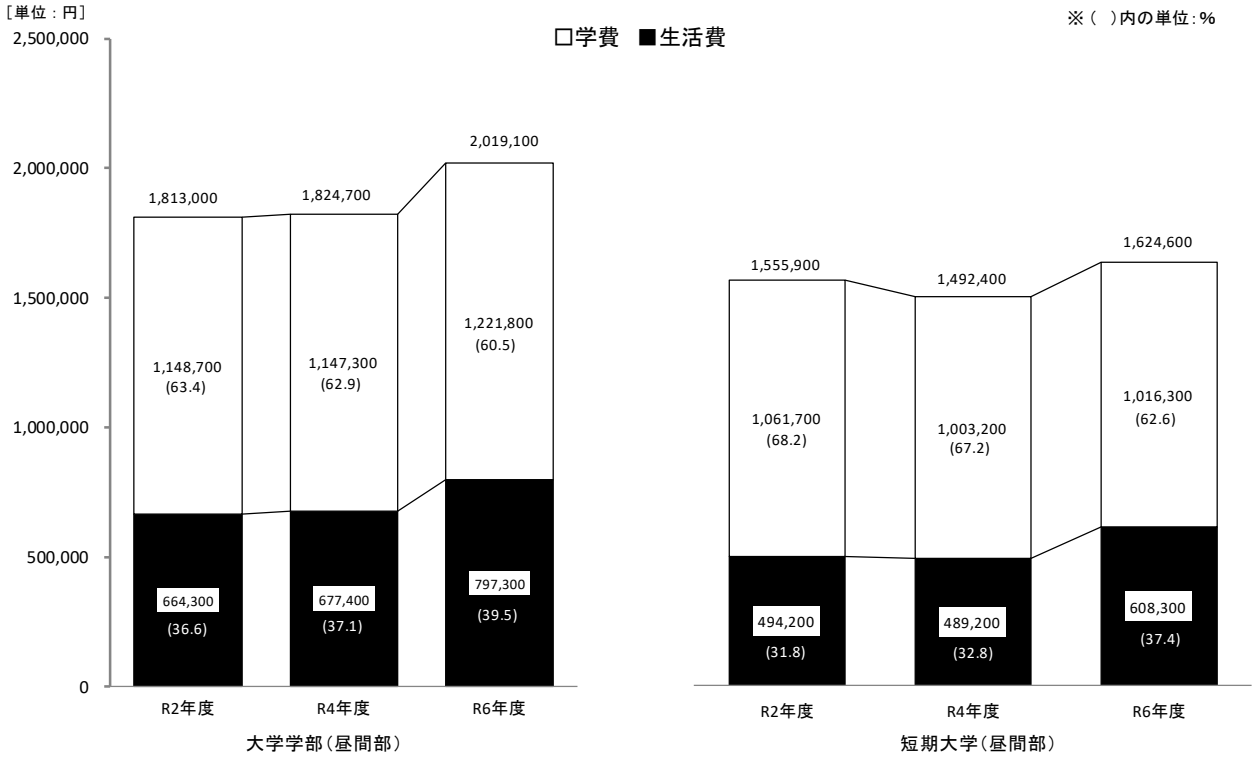
「・・・」 ： 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

1. 学生生活費(学費と生活費の合計)【1－1表、1－3表】

学生生活費を「学校区分（※)」別に見ると、大学学部（昼間部)、短期大学（昼間部）共に前回調査より増加している。学生生活費に占める割合は、学費の割合が減少、生活費の割合が増加している。

※大学学部(昼間部)・短期大学(昼間部)を指す。以下、本文中において同じ。

【大学学部(昼間部)】　前回調査より、19.4 万円増の 202 万円となっている。
【短期大学(昼間部)】　前回調査より、13.2 万円増の 162 万円となっている。



学生生活費の増減額の推移

区分		平成30年度→令和2年度		令和2年度→令和4年度		令和4年度→令和6年度	
		円	%	円	%	円	%
大学学部(昼間部)	学費	▲ 60,100	(▲ 5.0)	▲ 1,400	(▲ 0.1)	74,500	(6.5)
	生活費	▲ 40,400	(▲ 5.7)	13,100	(2.0)	119,900	(17.7)
	学生生活費	▲ 100,500	(▲ 5.3)	11,700	(0.6)	194,400	(10.7)
短期大学(昼間部)	学費	▲ 28,100	(▲ 2.6)	▲ 58,500	(▲ 5.5)	13,100	(1.3)
	生活費	▲ 43,600	(▲ 8.1)	▲ 5,000	(▲ 1.0)	119,100	(24.3)
	学生生活費	▲ 71,700	(▲ 4.4)	▲ 63,500	(▲ 4.1)	132,200	(8.9)

※（　）内の数値は、直前の調査の金額(学費・生活費・学生生活費)を基準とした増減率である。

2. 設置者別の学生生活費【1－1表、1－3表】

学生生活費を設置者別に比較した場合、いずれも私立が国立・公立より高くなっている。内訳を見ると、学費は大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に私立が最も高く、一方、生活費は私立が最も低くなっている。

生活費を大学学部（昼間部）について見てみると、私立の「食費、住居・光熱費」が国立・公立より低くなっているが、これは、（参考）居住形態別学生数の割合に掲載の通り、私立が国立・公立と比べ、「下宿、アパート、その他」の割合が 30%ほど低い一方で、住居・光熱費が 0 円と計上されるために「食費、住居・光熱費」の費用負担が抑えられる傾向にある自宅生の割合が高く、自宅や学寮などを含めた設置者別平均を集計すると、私立が最も費用が低くなるためである。

【大学学部(昼間部)】　学生生活費の合計では、私立が国立より 58 万円高くなっている。
　　学生生活費の合計では、私立が公立より 70 万円高くなっている。
【短期大学(昼間部)】　学生生活費の合計では、私立が公立より 52 万円高くなっている。

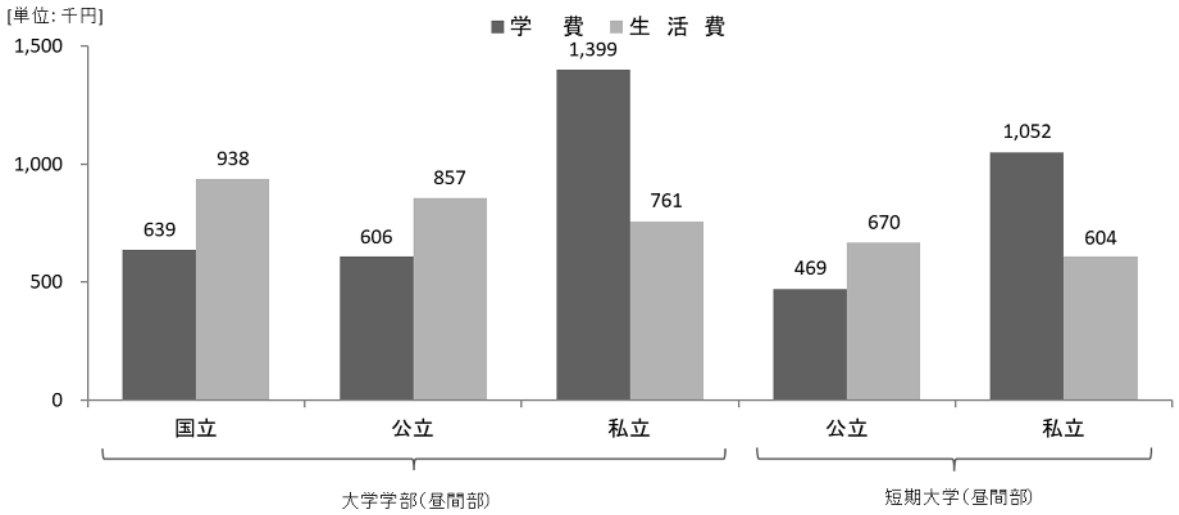
［単位：円］

区分		学費			生活費			合計
		授業料、その他の学校納付金	修学費、課外活動費、通学費	小計	食費、住居･光熱費	保健衛生費、娯楽･し好費、その他の日常費	小計	
大学学部（昼間部）	国立	477,200	162,000	639,200	566,800	371,100	937,900	1,577,100
	公立	453,300	152,900	606,200	493,000	364,200	857,200	1,463,400
	私立	1,174,700	224,400	1,399,100	371,900	389,300	761,200	2,160,300
	平均	1,012,400	209,400	1,221,800	412,500	384,800	797,300	2,019,100
短期大学（昼間部）	公立	345,500	123,400	468,900	396,100	273,500	669,600	1,138,500
	私立	863,200	188,400	1,051,600	239,000	365,400	604,400	1,656,000
	平均	831,800	184,500	1,016,300	248,500	359,800	608,300	1,624,600

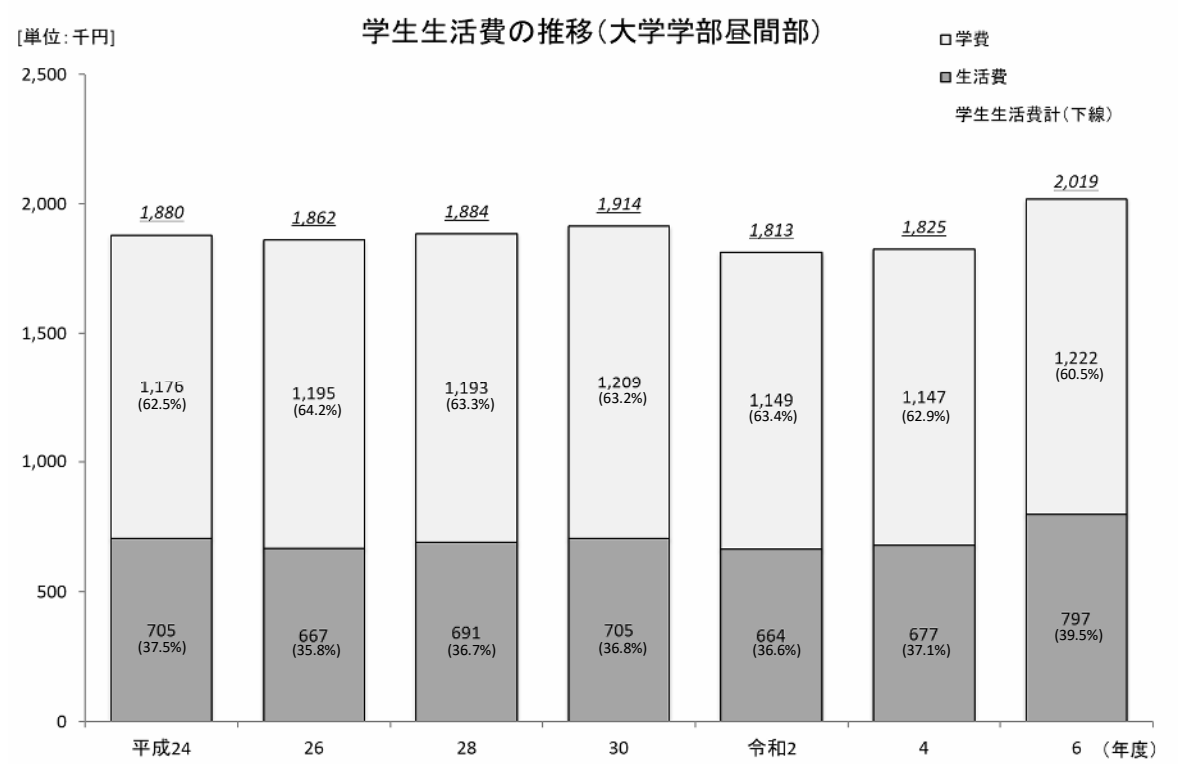
（参考）居住形態別学生数の割合（大学学部（昼間部））

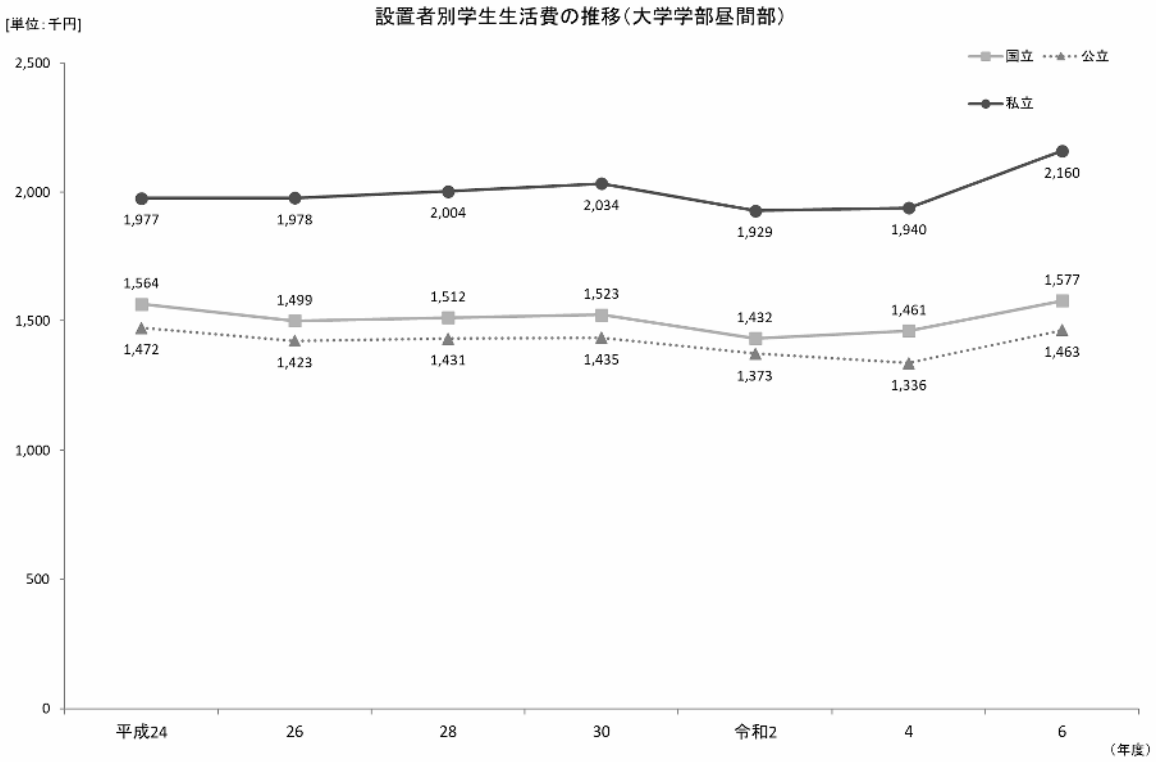
［単位：%］

区分	自宅	学寮	下宿、アパート、その他
国立	34.5	6.3	59.2
公立	40.3	3.8	55.8
私立	66.0	6.0	28.0



参考


学生生活費の推移（大学学部昼間部）
[単位：千円]
学費
生活費
学生生活費計（下線）
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
1,880
1,862
1,884
1,914
1,813
1,825
2,019
1,176 (62.5%)
1,195 (64.2%)
1,193 (63.3%)
1,209 (63.2%)
1,149 (63.4%)
1,147 (62.9%)
1,222 (60.5%)
705 (37.5%)
667 (35.8%)
691 (36.7%)
705 (36.8%)
664 (36.6%)
677 (37.1%)
797 (39.5%)
平成24
26
28
30
令和2
4
6
（年度）

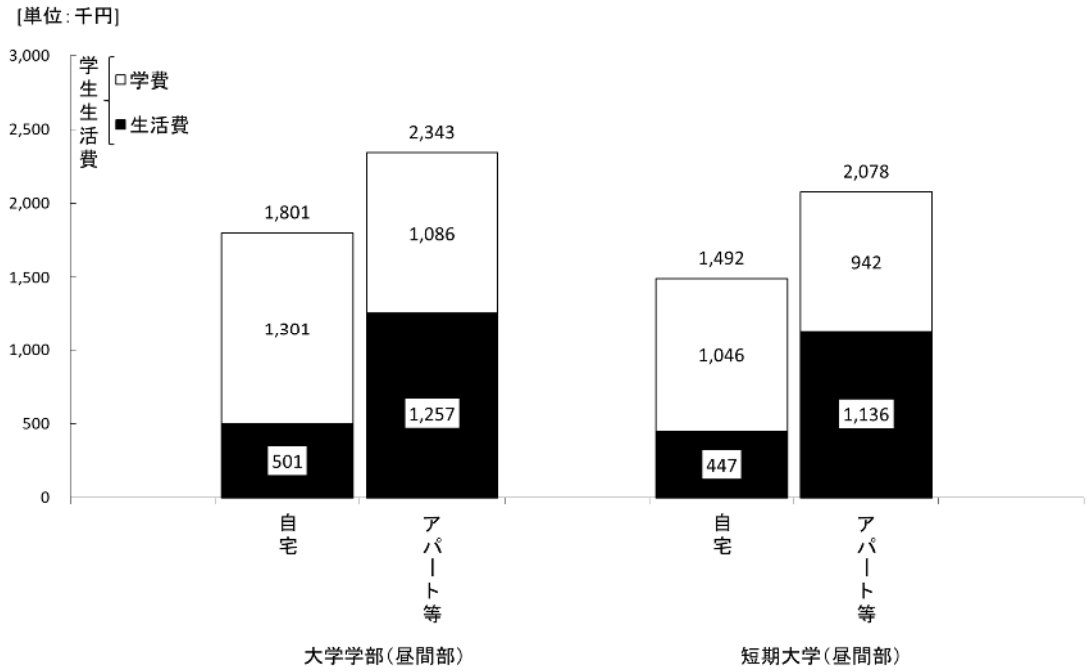

設置者別学生生活費の推移（大学学部昼間部）
[単位：千円]
国立
公立
私立
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
1,977
1,978
2,004
2,034
1,929
1,940
2,160
1,564
1,499
1,512
1,523
1,432
1,461
1,577
1,472
1,423
1,431
1,435
1,373
1,336
1,463
平成24
26
28
30
令和2
4
6
（年度）

3. 居住形態別の学生生活費 【1－1表、1－3表】

学生生活費を居住形態別に比較した場合、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に「自宅」より、下宿・アパート・その他に居住する者（以下「アパート等」という。）の学生生活費が高くなっているが、これは生活費の差によるところが大きい。

設置者別の学生生活費では、私立の「アパート等」が最も高くなっている。

【大学学部（昼間部）】　アパート等の学生生活費は、自宅に比べ 54 万円高くなっている。
【短期大学（昼間部）】　アパート等の学生生活費は、自宅に比べ 59 万円高くなっている。



［単位 ： 円］

区　　分		自　　宅		アパート等	
大学学部（昼間部）	国立	1,202,600	(1.00)	1,800,700	(1.50)
	公立	1,067,200	(0.89)	1,750,600	(1.46)
	私立	1,905,400	(1.58)	2,689,100	(2.24)
	平均	1,801,300		2,342,900	
短期大学（昼間部）	公立	823,600	(1.00)	1,433,500	(1.74)
	私立	1,515,400	(1.84)	2,190,300	(2.66)
	平均	1,492,200		2,077,900	

※（　）は、国立（短期大学では公立）の自宅を基準（1.00）とした場合の比率である。

4. 学生の収入状況【1－1表、1－3表】

学生の収入状況について、収入総額は、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に前回調査より増加している。

内訳を見ると、「アルバイト収入」の金額が増加、「定職・その他」の金額については減少している。

【大学学部(昼間部)】　前回調査より、 6.3 万円増の 203 万円となっている。
【短期大学(昼間部)】　前回調査より、 10.9 万円増の 173 万円となっている。

［単位：円］

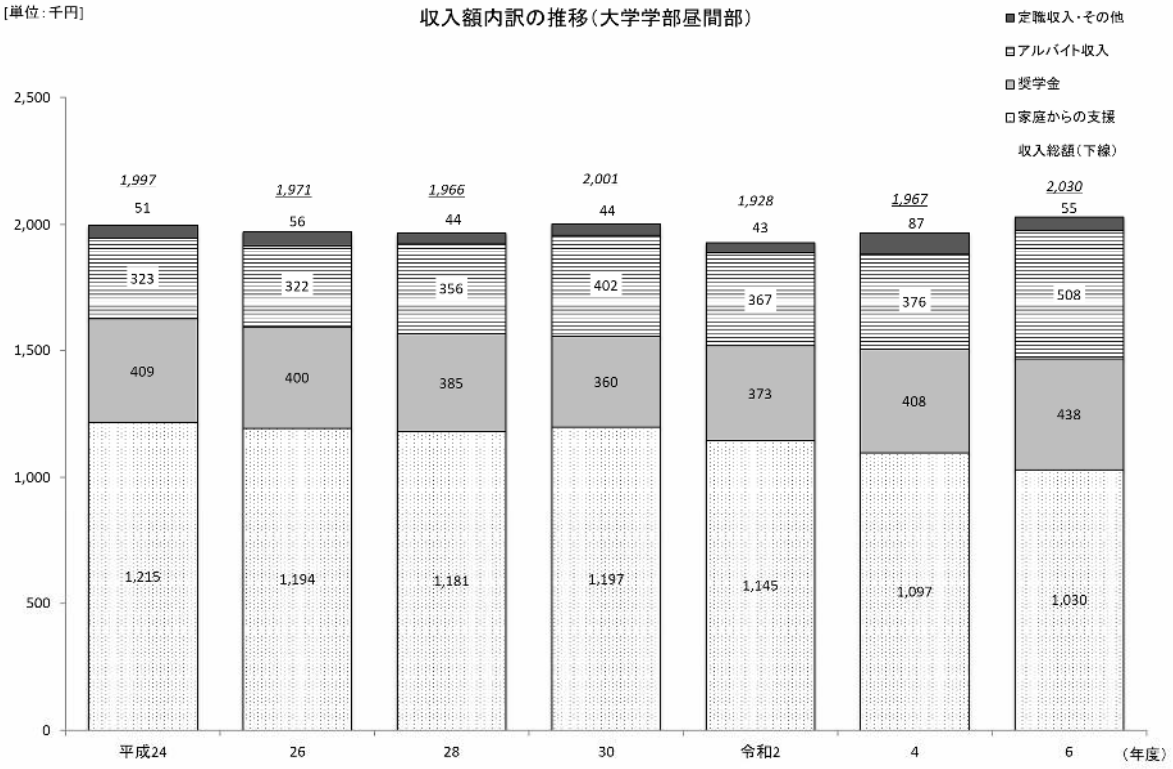
区　分		家庭からの支援	奨学金	アルバイト収入	定職・その他	合計
大学学部（昼間部）	令和4年度	(55.8) 1,096,900	(20.7) 407,600	(19.1) 375,900	(4.4) 87,000	(100.0) 1,967,400
	令和6年度	(50.7) 1,029,700	(21.6) 437,500	(25.0) 507,700	(2.7) 55,200	(100.0) 2,030,100
短期大学（昼間部）	令和4年度	(48.9) 792,900	(28.0) 453,800	(19.2) 311,600	(3.9) 62,400	(100.0) 1,620,700
	令和6年度	(46.4) 802,300	(25.1) 433,800	(25.3) 437,200	(3.2) 56,200	(100.0) 1,729,500

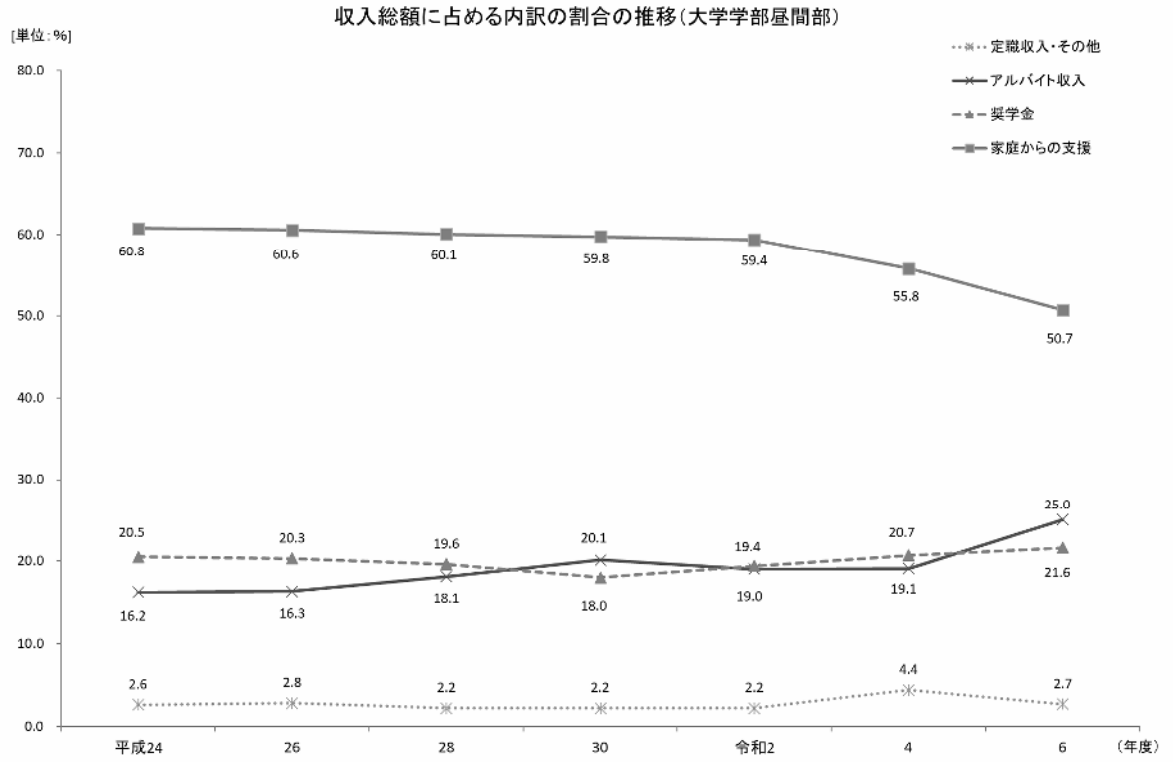
※　（　　）は、合計に占める割合（単位：%）である。

収入に関する直前調査からの増減率

区　分	平成30年度 →令和2年度	令和2年度 →令和4年度	令和4年度 →令和6年度
大学学部（昼間部）	▲3.7%	2.1%	3.2%
短期大学（昼間部）	▲3.6%	▲2.1%	6.7%

参考


[単位：千円]
収入額内訳の推移（大学学部昼間部）
定職収入・その他
アルバイト収入
奨学金
家庭からの支援
収入総額（下線）
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
1,997
51
323
409
1,215
1,971
56
322
400
1,194
1,966
44
356
385
1,181
2,001
44
402
360
1,197
1,928
43
367
373
1,145
1,967
87
376
408
1,097
2,030
55
508
438
1,030
平成24
26
28
30
令和2
4
6
（年度）


収入総額に占める内訳の割合の推移（大学学部昼間部）
[単位：%]
定職収入・その他
アルバイト収入
奨学金
家庭からの支援
80.0
70.0
60.0
50.0
40.0
30.0
20.0
10.0
0.0
60.8
60.6
60.1
59.8
59.4
55.8
50.7
20.5
20.3
19.6
20.1
19.4
20.7
21.6
16.2
16.3
18.1
18.0
19.0
19.1
25.0
2.6
2.8
2.2
2.2
2.2
4.4
2.7
平成24
26
28
30
令和2
4
6
（年度）

5. アルバイト従事状況 【4－1表、4－2表】

アルバイト従事者（調査時前１年間においてアルバイトに従事した経験を有する者）の割合は、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に前回調査より増加している。内訳を見ると、「家庭からの支援のみでは修学がやや困難・非常に困難及び支援無し」と回答した者の割合は増加、「家庭からの支援のみで十分修学可能」と回答した者の割合については減少している。

〔アルバイト従事者の割合〕

【大学学部（昼間部）】　前回調査より、2.6 ポイント増の 86.4％となっている。
【短期大学（昼間部）】　前回調査より、3.0 ポイント増の 83.7％となっている。

［単位：％］

区　分			令和2年度	令和4年度		令和6年度	
大学学部（昼間部）	アルバイト従事者		80.7	83.8	(3.1)	86.4	(2.6)
		家庭からの支援のみで十分修学可能	49.1	52.4	(3.3)	51.3	(▲1.1)
		家庭からの支援のみでは修学がやや困難・非常に困難及び支援無し	31.5	31.5	(0.0)	35.1	(3.6)
	アルバイト非従事者		19.3	16.2	(▲3.1)	13.6	(▲2.6)
短期大学（昼間部）	アルバイト従事者		77.7	80.7	(3.0)	83.7	(3.0)
		家庭からの支援のみで十分修学可能	42.8	50.9	(8.1)	47.4	(▲3.5)
		家庭からの支援のみでは修学がやや困難・非常に困難及び支援無し	35.0	29.7	(▲5.3)	36.3	(6.6)
	アルバイト非従事者		22.3	19.3	(▲3.0)	16.3	(▲3.0)

※　（　）は、直前の調査との増減である。

6. 奨学金の受給状況【6－1表、6－2表、7表】

何らかの奨学金を受給している者の割合は、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に減少に転じている。

なお、何らかの奨学金を受給している者の割合とは、日本学生支援機構の給付奨学金、同貸与奨学金、日本学生支援機構以外の給付奨学金、同貸与奨学金のうち、1 つ以上を受給したと回答した者の割合である※。

【大学学部(昼間部)】　前回調査より、3.9 ポイント減の 51.1%となっている。

【短期大学(昼間部)】　前回調査より、4.2 ポイント減の 57.3%となっている。

※日本学生支援機構の給付奨学金及び貸与奨学金の受給者の割合は、令和 6 年度支援実績ベースでは、大学学部は 31.7%、短期大学は 34.6%となっている。

[単位:%]

区分			令和2年度	令和4年度		令和6年度	
大学学部	昼間部	国立	42.3	49.8	(7.5)	43.8	(▲6.0)
		公立	55.0	57.6	(2.6)	54.8	(▲2.8)
		私立	50.8	55.9	(5.1)	52.4	(▲3.5)
		平均	49.6	55.0	(5.4)	51.1	(▲3.9)
短期大学	昼間部	公立	59.7	64.1	(4.4)	60.7	(▲3.4)
		私立	56.7	61.4	(4.7)	57.1	(▲4.3)
		平均	56.9	61.5	(4.6)	57.3	(▲4.2)

(参考)設置者別・奨学金の種類別学生数の割合

[単位:%]

区分			奨学金の種類			
			日本学生支援機構	その他の奨学金	両方	計
大学学部	昼間部	国立	79.7	9.9	10.4	100.0
		公立	85.2	7.6	7.2	100.0
		私立	83.5	6.1	10.5	100.0
		平均	83.0	6.8	10.2	100.0
短期大学	昼間部	公立	88.6	3.0	8.4	100.0
		私立	73.9	12.7	13.4	100.0
		平均	74.9	12.0	13.1	100.0

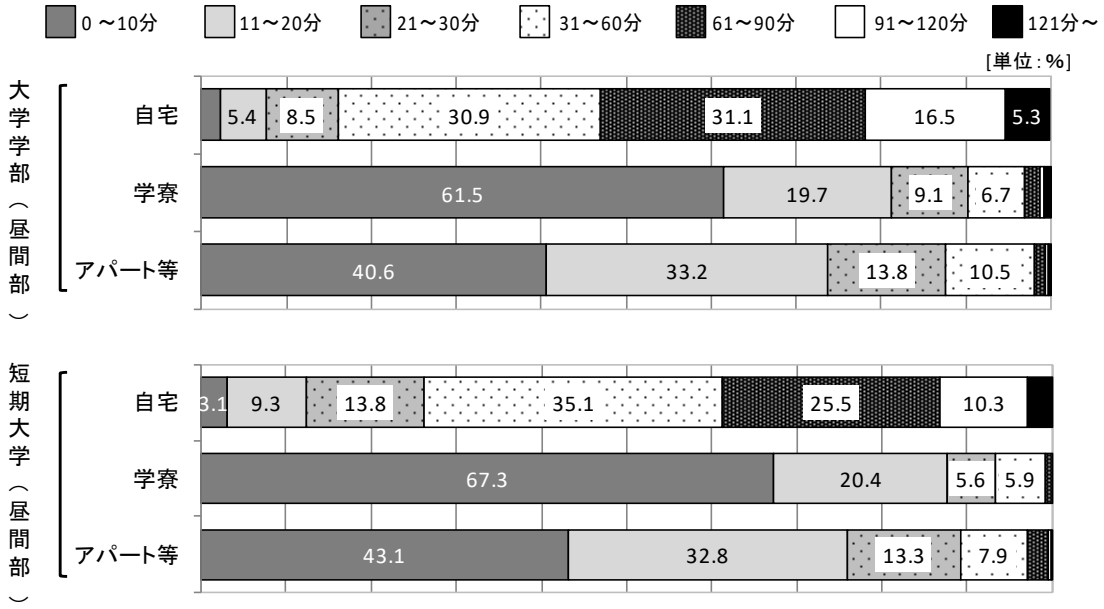
7. 片道通学時間【8－1表、8－2表】

片道通学時間について居住形態別に見ると、自宅からの通学者では、大学学部（昼間部）は「61～90 分」、短期大学（昼間部）は「31～60 分」と回答した者の割合が最も高くなっている。

学寮からの通学者では、共に「0～10 分」と回答した者の割合が 6 割を超えている。

アパート等からの通学者では、共に「0～10 分」又は「11～20 分」と回答した者の割合が 7 割を超えている。

前回調査との比較について、大学学部（昼間部）で見ると（下表「(参考）令和 4 年度調査」参照)、大きな傾向の変化は見られなかった。



[単位：%]

区分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上
大学学部（昼間部）	自宅	2.2	5.4	8.5	30.9	31.1	16.5	5.3
	学寮	61.5	19.7	9.1	6.7	1.8	0.4	0.8
	アパート等	40.6	33.2	13.8	10.5	1.2	0.4	0.3
短期大学（昼間部）	自宅	3.1	9.3	13.8	35.1	25.5	10.3	2.9
	学寮	67.3	20.4	5.6	5.9	0.8	－	－
	アパート等	43.1	32.8	13.3	7.9	2.5	0.2	0.2

（参考）令和4年度調査

[単位：%]

区分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上
大学学部（昼間部）	自宅	1.5	5.0	9.2	32.2	28.8	17.3	6.1
	学寮	59.2	21.3	8.1	8.4	2.5	－	0.5
	アパート等	40.4	33.7	13.3	9.5	2.1	0.7	0.4

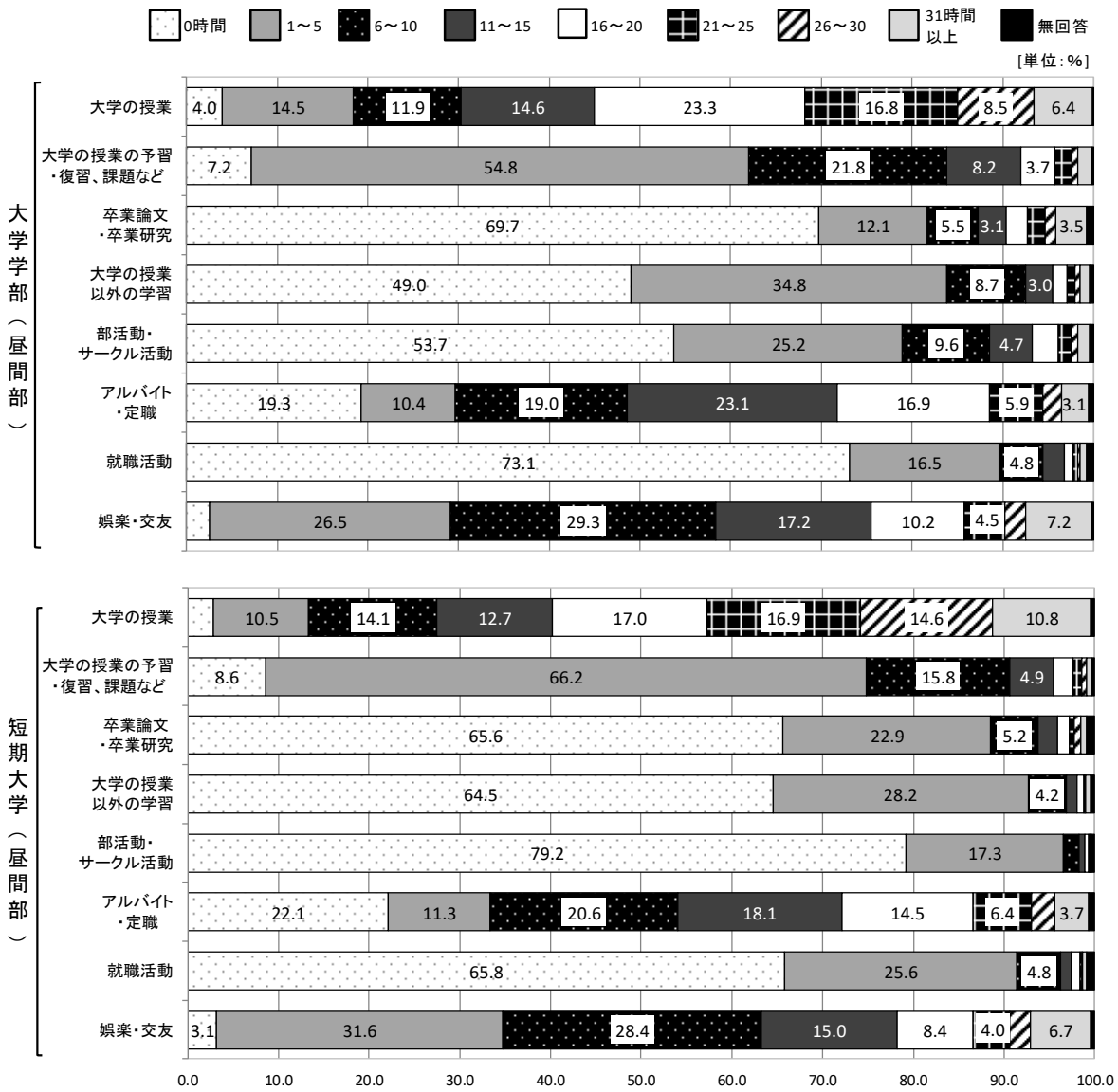
8. 週間平均生活時間【9－1表、9－2表】

週間平均生活時間は、授業期間中の典型的な 1 週間（7 日間）の生活時間について回答したものである。大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に「大学の授業」、「大学の授業の予習・復習、課題など」及び「娯楽・交友」について、それぞれ週 1 時間以上費やしていると回答した者の割合が 9 割を超えている。

前回調査との比較について、大学学部（昼間部）で見ると（次頁の下表「(参考）令和 4 年度調査」参照)、「大学の授業」を週 6 時間以上と回答した者の割合が 7.5 ポイント増加した一方で、「アルバイト・定職」、「就職活動」を週 0 時間と回答した者の割合が約 4 ポイント減少している。

※大学学部（昼間部）及び短期大学（昼間部）の「大学の授業」には、オンライン授業やオンデマンド型授業の視聴時間も含む。

※大学学部（昼間部）及び短期大学（昼間部）の「大学の授業以外の学習」には、語学学校、通信講座や独学での学習などが該当する。



[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学学部（昼間部）	大学の授業	4.0	14.5	11.9	14.6	23.3	16.8	8.5	6.4	0.1	100.0
	大学の授業の予習・復習、課題など	7.2	54.8	21.8	8.2	3.7	1.9	0.7	1.5	0.2	100.0
	卒業論文・卒業研究	69.7	12.1	5.5	3.1	2.3	1.9	1.2	3.5	0.7	100.0
	大学の授業以外の学習	49.0	34.8	8.7	3.0	1.6	0.9	0.4	1.2	0.4	100.0
	部活動・サークル活動	53.7	25.2	9.6	4.7	2.9	1.4	0.7	1.3	0.4	100.0
	アルバイト・定職	19.3	10.4	19.0	23.1	16.9	5.9	1.9	3.1	0.5	100.0
	就職活動	73.1	16.5	4.8	2.3	1.0	0.5	0.2	0.7	0.8	100.0
	娯楽・交友	2.6	26.5	29.3	17.2	10.2	4.5	2.2	7.2	0.2	100.0
短期大学（昼間部）	大学の授業	2.9	10.5	14.1	12.7	17.0	16.9	14.6	10.8	0.4	100.0
	大学の授業の予習・復習、課題など	8.6	66.2	15.8	4.9	2.1	1.0	0.5	0.5	0.4	100.0
	卒業論文・卒業研究	65.6	22.9	5.2	2.2	1.3	0.5	0.8	0.6	0.9	100.0
	大学の授業以外の学習	64.5	28.2	4.2	1.2	0.8	0.1	0.1	0.5	0.5	100.0
	部活動・サークル活動	79.2	17.3	1.7	0.6	0.5	0.2	－	0.1	0.4	100.0
	アルバイト・定職	22.1	11.3	20.6	18.1	14.5	6.4	2.6	3.7	0.7	100.0
	就職活動	65.8	25.6	4.8	1.2	0.9	0.3	0.1	0.5	0.9	100.0
	娯楽・交友	3.1	31.6	28.4	15.0	8.4	4.0	2.3	6.7	0.4	100.0

（参考）令和4年度調査

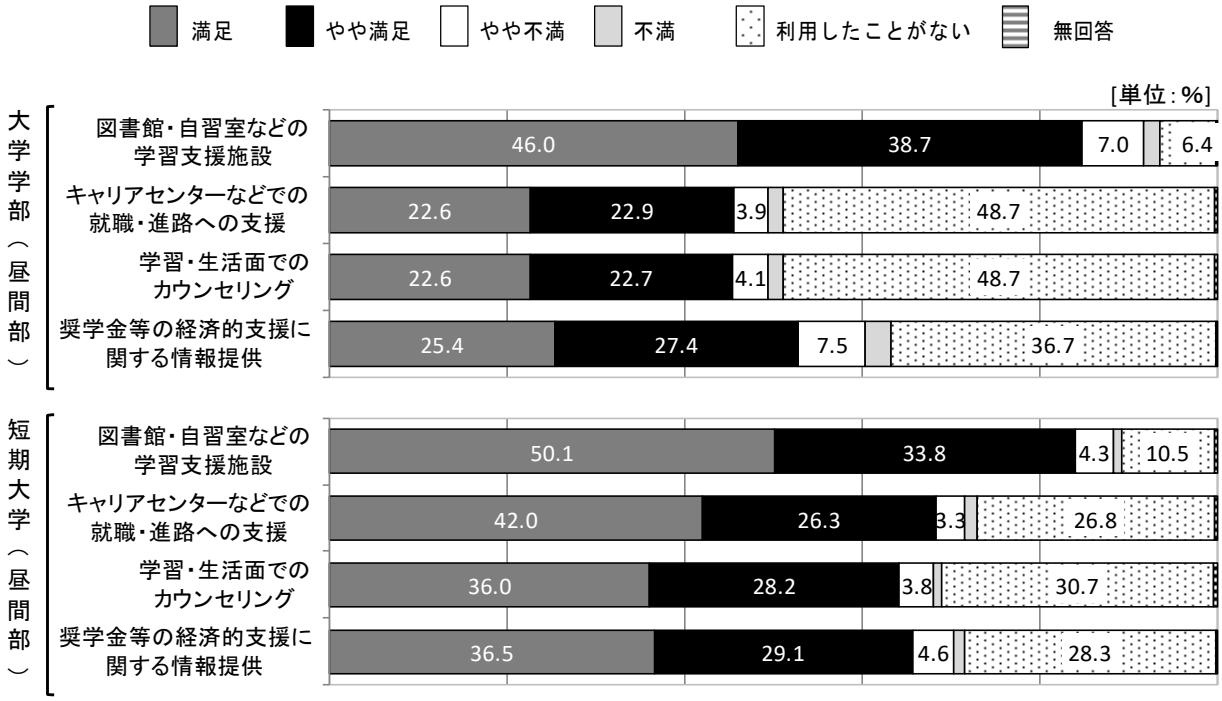
[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学学部（昼間部）	大学の授業（含オンライン授業）	4.8	21.0	14.0	14.3	20.4	13.8	6.2	5.3	0.2	100.0
	大学の授業の予習・復習、課題など	9.1	52.3	22.9	7.7	3.8	1.6	1.0	1.4	0.2	100.0
	卒業論文・卒業研究	68.1	13.0	6.1	3.2	2.0	1.5	1.2	3.5	1.4	100.0
	大学の授業以外の学習	51.7	32.9	7.9	2.6	1.7	0.9	0.4	1.3	0.6	100.0
	部活動・サークル活動	55.7	25.1	8.6	4.3	2.5	1.4	0.9	1.2	0.5	100.0
	アルバイト・定職	23.3	12.5	18.9	19.2	14.7	5.7	1.9	3.4	0.4	100.0
	就職活動	77.2	14.9	3.9	1.4	0.6	0.3	0.1	0.5	1.0	100.0
	娯楽・交友	2.5	31.5	28.2	15.8	9.4	4.0	1.9	6.2	0.5	100.0

9. 大学の学生支援体制への満足度 【10－1表、10－2表】

大学の学生支援体制への満足度について、「満足」又は「やや満足」と回答した者の割合は、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に「図書館・自習室などの学習支援施設」で５割を超えている。また、短期大学（昼間部）では、他のすべての項目についても６割を超えている。

前回調査との比較について、大学学部（昼間部）で見ると（下表「(参考）令和４年度調査」参照）、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」の項目では「満足」と回答した者の割合が減少し、「利用したことがない」と回答した者の割合が増加している。



[単位：%]

区　分		満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことがない	無回答	計
大学学部（昼間部）	図書館・自習室などの学習支援施設	46.0	38.7	7.0	1.8	6.4	0.2	100.0
	キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	22.6	22.9	3.9	1.6	48.7	0.3	100.0
	学習・生活面でのカウンセリング	22.6	22.7	4.1	1.6	48.7	0.3	100.0
	奨学金等の経済的支援に関する情報提供	25.4	27.4	7.5	2.8	36.7	0.2	100.0
短期大学（昼間部）	図書館・自習室などの学習支援施設	50.1	33.8	4.3	1.0	10.5	0.4	100.0
	キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	42.0	26.3	3.3	1.3	26.8	0.3	100.0
	学習・生活面でのカウンセリング	36.0	28.2	3.8	0.9	30.7	0.5	100.0
	奨学金等の経済的支援に関する情報提供	36.5	29.1	4.6	1.2	28.3	0.2	100.0

（参考）令和4年度調査

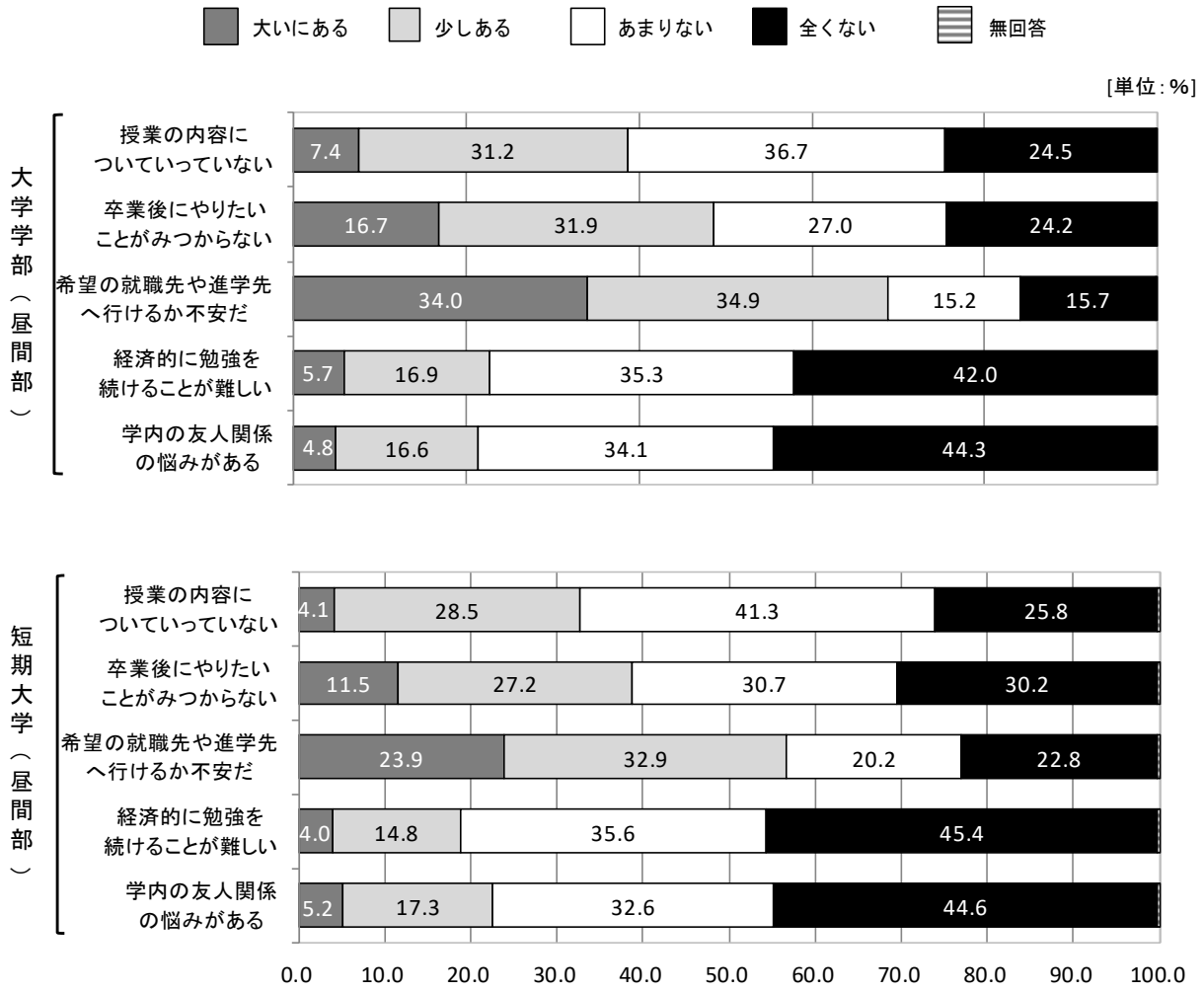
[単位：%]

区　分		満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことがない	無回答	計
大学学部（昼間部）	図書館・自習室などの学習支援施設	43.7	40.1	7.0	1.8	7.3	0.1	100.0
	キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	23.4	24.6	4.5	1.4	45.9	0.2	100.0
	学習・生活面でのカウンセリング	21.4	24.0	4.5	1.6	48.4	0.2	100.0
	奨学金等の経済的支援に関する情報提供	25.1	28.3	8.2	2.8	35.3	0.3	100.0

10. 学生の不安や悩み【11－1表、11－2表】

学生の不安や悩みについて、「大いにある」又は「少しある」と回答した者の割合は、大学学部（昼間部）、短期大学（昼間部）共に「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」で5割を超えている。一方で、「あまりない」又は「全くない」と回答した者の割合は、「経済的に勉強を続けることが難しい」、「学内の友人関係の悩みがある」がそれぞれ概ね8割となっている。

前回調査との比較について、大学学部（昼間部）で見ると（下表「(参考）令和4年度調査」参照）、大きな傾向の変化は見られなかった。



［単位：%］

区　分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
大学学部（昼間部）	授業の内容についていっていない	7.4	31.2	36.7	24.5	0.2	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	16.7	31.9	27.0	24.2	0.2	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	34.0	34.9	15.2	15.7	0.2	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	5.7	16.9	35.3	42.0	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	4.8	16.6	34.1	44.3	0.2	100.0
短期大学（昼間部）	授業の内容についていっていない	4.1	28.5	41.3	25.8	0.3	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	11.5	27.2	30.7	30.2	0.3	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	23.9	32.9	20.2	22.8	0.3	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	4.0	14.8	35.6	45.4	0.2	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	5.2	17.3	32.6	44.6	0.2	100.0

（参考）令和4年度調査

［単位：%］

区　分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
大学学部（昼間部）	授業の内容についていっていない	6.6	32.5	37.5	23.3	0.2	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	17.4	33.7	26.8	22.0	0.2	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	31.6	37.0	14.8	16.4	0.2	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	4.9	17.8	34.3	42.8	0.2	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	4.3	16.1	35.0	44.5	0.2	100.0